

鹿児島大学 奄美群島 島めぐり講演会 第5回 in 与論島

**参加無料
登録不要**

資料準備のため
事前連絡希望

2019年10月19日（土）14:00～16:30
中央公民館大ホール

**奄美・沖縄諸島の先史時代：
奇跡の島々？**

**高宮広土（国際島嶼教育研究
センター奄美分室）**

奄美・沖縄諸島の島々には約3万年前からヒトがいて、貝塚時代という狩猟採集漁撈民の時代を経て、グスク時代に農耕が始まり、首長社会が成立し、最終的に沖縄島で国が成立しました。と、よく語られますが、この過程を別の角度から見ると、実は世界にとっても稀な文化現象であったようです。本講義では、これらの点について紹介します。

**江戸時代の南西諸島における
陶磁器流通**

渡辺芳郎（法文学部）

江戸時代の南西諸島では、本土からは肥前地方（佐賀・長崎県）の陶磁器や鹿児島島の薩摩焼が、南からは沖縄を經由した中国の陶磁器（清朝磁器）が、さらに沖縄で作られた陶器（壺屋焼）が流通していました。島の人々がどのような陶磁器を生活に使っていたか、その具体的な姿を、遺跡の発掘調査を通じて得られた考古学資料や島に残る伝来資料から明らかにします。

問い合わせ先：鹿児島大学 奄美分室

（〒894-0026 奄美市名瀬港町15-1袖会館6階）

Tel 0997-69-4852 <メール> amamist@cpk.kagoshima-u.ac.jp

主催 鹿児島大学薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備プロジェクト
共催 鹿児島大学国際島嶼教育研究センター・奄美群島広域事務組合
後援 与論町教育委員会



詳細はこちらから